

障がいのある人の働き方・仕事力をお話します

株式会社エクスクラメーション・スタイル 代表取締役
板倉信太郎

板倉信太郎（いたくら しんたろう）

1973年生まれ。1998年京都大学大学院卒業。積水のグループ会社に入社し、研究開発に4年、特許部に2年勤めた後、退職。大学時代に知的障がいのある子どもの余暇支援サークルをしていたこともきっかけとなり、2006年にNPO法人の立ち上げ、2007年に障がい者訓練事業所の立ち上げに参画して、現在2005年から!-style projectに初期参画。NPO法人!-style、株式会社!-styleの代表を務める。現在、6つの障がいのある人たちの就労訓練事業所を運営している。



■エクスクラメーション・スタイルのミッション

みなさん、こんにちは。ご紹介頂きましたエクスクラメーション・スタイルの板倉と申します。5年前に弊社の吉野がこちらでお話をさせて頂き、その際の記録等を読んでくださった方はいらっしゃるかと思います。また、最近は少なくなりましたが、5年ほど前はよく講演活動をしていましたので、どちらかでお話をお聴きくださった方もいらっしゃるのではと思っています。重複するお話もあると思いますが、ずっと続けている活動も発展している活動もありますのでどうかお付き合いください。

エクスクラメーション・スタイルは主に障がい福祉や障がいがある方の就労訓練所を運営しています。私たちは新たな障がい福祉のパイオニアだと自負していますが、事業ミッションとしては「障がいのある方の仕事力を社会に正しく伝え、その力が社会の資源として求められ、障がいがある方がその仕事を

することで『普通の幸せ』を感じられる居場所である事」を掲げています。私たちはよく「普通の」という言葉を使いますが、障がいがあるというだけで疎外感を感じたり逆に健常者の方々が距離を感じたりする事があります。「普通の幸せ」を感じられる環境をつくり、少なくともエクスクラメーション・スタイルと関わっている時は「みんな一緒だ」と感じられる場所でありたい。「I and I make it! = みんなでつくりあげる」をモットーとし、「事業ミッションを達成するためには何が必要か」を常に議論しています。陶器を作ったり、食品を加工したり、お店をやったりと自分たちの仕事が社会のどこかで役に立っている、喜んで製品を使って頂いている、喜んでサービスを受けて頂いている事こそが、障がいをお持ちの方々が幸せを感じる事だと思っています。

さらにどれだけ多くの方々に繋がって頂くか。エクスクラメーション・スタイルの自己満足では駄目ですし、エクスクラメーション・スタイルだけで完結させない事。ありき

たりの言葉ですが、企業と福祉、福祉同士、市民活動と福祉の協働、連携によってが、私たちがやりたい事だと考えています。そういった意味からも最初に私たちのミッションを紹介させて頂きました。

■組織と構成

私は代表取締役という肩書きを頂いていますが、現在エクスクラメーション・スタイルは「NPO 法人エクスクラメーション・スタイル」「社会福祉法人エクスクラメーション・スタイル・キョウト」「株式会社エクスクラメーション・スタイル」「株式会社 J・F・S」の4法人で運営しています。

プロジェクトのスタートは2005年8月で、NPO 法人の取得は2006年11月になります。当時、烏丸御池の新風館3階に京都府のインキュベーション施設「京都スタイル」があり、全国の福祉事業所との共同企画品や全国の福祉事業所のおもしろアイテムをセレクトし販売していました。今でこそいろんな露出もありご存知の方も多いと思いますが、当時はまだ福祉製品や授産製品と言われていて、そのセレクトショップは全国的にも珍しかったと思います。

エクスクラメーション・スタイルの前身「エクスクラメーション・スタイル・プロジェクト」のスタートが2005年8月で翌2006年11月に法人を取得、半年後の2007年4月に京都府八幡市に障がい福祉の就労訓練事業所「!-factory kozuya (こうずや)」を立ち上げました。現在は「!-factory kozuya」に加え「!-factory shinmachi」「!-factory yamazaki」「!-factory takeda」「!-brain karasuma works」,「KYOGOKU DINING」があります。

■法改正の元で

皆さんは障がい者総合支援法という法律をご存知ですか？その前身となる障がい者自立支援法が2006年10月に施行されましたが、「障がいのある方に自己負担で訓練を受けさせ、生活の場をつくろうとする悪法だ」とかなり叩かれていました。しかし、私たち事業所側からすれば、ある意味規制緩和となる法律だったんです。障がい者自立支援法の前の支援費制度では授産施設や更生施設といった福祉施設は社会福祉法人にしかできなかったんですが、改正後は法人格があればできるように変わりました。そこでエクスクラメーション・スタイルが名乗りを上げ NPO 法人を取得、障がいがある方の就労訓練事業所を立ち上げました。つまり、私たちが事業をスタートできたのは障がい者自立支援法のおかげだと言い切っても過言ではないんです。

その後、自立支援法がいろいろと取り上げられた事で自己負担の補助が進み、現在ほとんどの方が自己負担なく使われています。制度的にはすごく変わった時期ですが、10数年前に自由化された介護保険と同じような状況になり、様々な業態が自由化されたイメージをもって頂ければと思います。ただ、それまでは福祉施設の分野は大手の福祉法人がやられていたため、「この新参者が!」となかなか利用者さんが集まらず、できたばかりの制度の元、何も分からず右往左往した記憶が残っています。

■現在のエクスクラメーション・スタイル

2007年4月にスタートした「!-factory」

ではオリジナルの陶器製品生産事業を行い、1年後にセントラルキッチン（食品加工）事業をスタートしました。そして2010年10月にグッドデザイン賞を頂き、2011年4月に2つ目の事業所「!-factory shinmachi」をスタート、私たちは「!-foods」と呼んでいます、三条新町に飲食店をオープンしました。さらに2012年7月に「!-factory yamazaki」、2013年2月に「!-factory takeda」、2014年7月に四条烏丸「Karasuma works」、同10月に上京区「KYOGOKU DINING」、同12月に「NEW STANDARD CHOCOLATE kyoto」、そして今年6月に「!-brain green」をオープンしています。

よく「どのように法人を使い分けているんですか？」と尋ねられますが、4つの法人がどの事業所を管轄するかはそれほど意識していません。組織形態としては2つの法人と2つの株式会社がそれぞれに役割を持っていて、NPO法人は小回りが利いて社会的な価値を創出すべきだと考え、福祉を中心とした事業のパイオニアとして、また、社会福祉法人は地域に根ざした事業を地域起こしに繋がる形でやっていきたいと考えています。一方、株式会社は企業と社会と福祉を繋ぐ事を目的に就労福祉や新たな仕事の形を企業に提案しています。

■「!-factory」とは？

では、それぞれの事業所の具体的な活動内容についてお話させていただきます。

まず「!-factory」は、こちらの写真のように白い建物で240平米＝80坪あり、陶器作りと食品加工をしながら訓練をしています。畑と田んぼの真ん中に建っていて看板があるんですが、デザインを福祉事業所に入れる

というのは最近でこそ流行っていて皆さんやってらっしゃいますが、当時は考えられなかった事でした。今でこそ「カッコイイ事業所ですね」と言って頂きますが、最初は「本当に事業所ですか？」とよく言われていました。こちらは製作中の写真でお皿やコップ、植木鉢などをつくっています。

私たちは元々「エクスクラメーション・ストア」というお店をやっていて、「福祉事業所の製品のクオリティーを上げたい」という思いが強くありました。ですから、木工製品の事業所に新たな製品を依頼したり、刺子のTシャツをつくって頂いたりしています。さらに製品を社会に向けて発信するには、福祉事業所であろうと一般市場の原理に従わなければならないと、見本市への出店などにもチャレンジしています。食品加工においても製品をそのまま販売するのではなく、飲食店に販売したり OEM としてクッキーを作ったりと食品加工業者として従事しています。

■「!-foods」とは？

次に「!-foods」のカテゴリーとしては三条新町の「!-foods」、大山崎の「!-factory yamazaki」、上京区の「KYOGOKU DINING」で食品加工を行っています。



「!-factory yamazaki」は、福祉の専門学校である大阪保育福祉専門学校の学生食堂の運営を労働訓練事業として受託し運営しています。専門学校に福祉事業所が入り学生食堂を事業所とし認可を受けるといったなかなか前例のないモデルです。実習で食堂を使わせて頂くなどの例は結構あると思いますが、画期的な事業だと自負しています。また、福祉の専門学校なので接客面での理解もあり、福祉事業所がある事で福祉の専門学校としての価値も上がると、互いにウィンウィンの良好な共存関係を築いています。

一方、一番新しい「KYOGOKU DINNING」は堀川通商店街の中にあり、6 棟約 60 世帯の堀川団地の「食堂」というイメージでつくりました。隣には「NEW STANDARD CHOCOLATE kyoto」があり、チョコレートの製造・小売を行っています。

■「!-brain」とは？

もう一つの 카테고리 「!-brain」では、企業や団体から PC 業務やデスクワークなど事務系の作業を受託。就労講座やコミュニケーション講座を受けながらプレ就労訓練・生活訓練を行う場所として竹田に一つと、今春から分所として「!-brain karasuma works」がスタートしています。さらに相談支援の事業所（ショブズ・サポート・チーム）「!-brain green」では、発達障がいのある中・高生を対象とした放課後デイサービスも始めています。

■働く意欲の入口として

これらの事業所を地図に落してみると南は八幡から北は上条まで、地下鉄、JR、

阪急沿線と京都府下に点在しています。

こちらは先ほどお話しした「!-factory kozuya」の写真です。右上に就労移行支援、就労継続支援 B 型と記されているのは障がい福祉サービスのカテゴリーの事業名で、就労移行支援とは就職に最も近い方を企業に押し上げる支援で、企業での就業の定着を図る事業です。就労継続支援 B 型はそこで仕事をして工賃を得たり仕事のやりがいを感じたりする事業所の事です。

先ほどの「!-foods shimmachi works」は就労移行支援で店内で作業をして頂き、「KYOGOKU DINNING」は就労継続支援 B 型で同じく店内で仕事をして頂きます。ちなみに「!-foods yamazaki」は約 150 人が入れる大きな食堂です。

障がいがある方の就労支援のスタンスとしては、まずは「ここで働きたい!」と思って頂ける環境づくりだと思っています。お店でも事業所でもまずは環境を整備する事。「カッコイイな」「ここで仕事してみたいな」と思って頂く事が、大事だと思っています。比較する事ではありませんが、今までの事業所は無機質なイメージが強いので、そうではなく楽しい雰囲気、カッコイイ雰囲気を感じ「ここで働きたい」と思って頂く事がまずは入口だと。そして、興味のある事を仕事の入口にする。飲食店や陶器製作、事務作業と私たちが仕事の間口を広げているのは、十人十色の興味に対してどこかで入口を見つけて欲しいから。入口を入れればいろんな発見ができるはずですから、調理、接客、パソコン業務、事務…と興味をどんどん広げて頂きたいと思っています。

■仕事の入口から就労支援へ

自分たちの仕事が社会の役に立っている、自分たちが気に入って使ってもらっているなど、障がいをもつ方々が感じ取る「社会の評価」はとても大事です。仕事にプライドをもち、やりがいを感じる。お金だけではない、仕事を持つ意味を感じ取る事は障がいがあってもなくても一緒です。

そしてもう一つ、先ほどもお話した「自分たちだけで完結しない事」。なぜなら自分たちだけで仕事はできませんし、私たちの仕事も社会のどこかからか受け渡されたバトンを変化させていると考えているので、「自分たちだけで完結させない事」を知って頂きたいと思います。デザインであればプロのデザイナーとのコラボや福祉事業所との連携を、販売促進であれば私たちだけではとても大変なので企業との協力体制をとる。自分たちだけでは可能性が低くなってしまうので、自分たちだけで完結しない取り組みとしてやっていきたい。そういった思いで様々な事業所を運営しています。

ここまでは5年前にお話した事とほぼ変わりはないと思いますし、スタンスも変わらず運営も延長線上でやってきたかなと思っています。次のスライドからはその後の事業展開を新たな切り口でお話させて頂きたいと思っています。

■若年性認知症・就労サポート事業

まず、エクスクラメーション・スタイルの現在の取り組みについてお話します。

一つ目は、お配りしたチラシの中にもある若年性認知症・就労サポート事業についてで

す。最近はニュース等でもよく取り上げられているのでご存知の方も多くなった若年性認知症は65歳以下で発症するため発症すれば介護保険が使えます。しかし、高齢者のデイサービス等でヒットしない方が多いのが現状です。そこで行政が考えた苦肉の策が「障がい福祉サービスを使えるように」で、実際、若年性認知症の方が私たちの福祉サービスを受けていますし、さらに専用のプログラムを作ろうと新たな取り組みもスタートさせようとしています。

若年性認知症の患者は2009年で37,000人（全国）、京都市内ではおよそ500人とされていました。潜在的にはもっといるでしょうし、調査から5年を経た現在は数千人規模の患者数になっていると思います。若年性認知症の大きな課題は本人だけでは済まない問題が大きい事で、経済的な問題や働きたいけれど働けないといった問題を障がい福祉サービスでサポートしています。事業開始から約4年になり、障がい福祉サービスの活用法は私たちもずっと考えてきた事なので取り組み自体はまだ微々たるものですが、一緒にさせて頂いています。

■町カフェで堀川団地の再生へ

次に、堀川団地の再生を目指す町カフェ「KYOGOKU DINNING」には共同事業者として参画しています。堀川団地は戦後間もなくできた日本最古の下駄履きの団地で、建築物としても価値があります。その団地をリノベーションする、団地を再生するという事で私たちが町カフェとして入らせて頂いています。町カフェ＝町づくりカフェ＝コミュニティ・カフェという事ですが、私たちはさらに福祉事業として障がいのある方の仕事を

求めていこうと、4月に事業所としての認可を取得しました。「団地に住む皆さんのダイニング」という位置付けで飲食店の企画スペースとして「KYOGOKU DINNING」を営業しながら、福祉事業や障がい福祉サービスを町づくりに活かす方法を検証しています。

「KYOGOKU DINNING」の隣にチョコレート・ショップ「NEW STANDARD CHOCOLATE kyoto」があり、さらにその隣の堀川会議室もエクスクラメーション・スタイルが運営・管理をさせて頂いています。団地再生、リノベーションに私たちの事業を如何に組み込んでいくか、障がいのある方たちの仕事をどのように切り出していくかに取り組んでいます。

■「!-brain green」とは？

さらにもう一つ力を入れているのが、発達障がいのある中・高生たちの放課後デイサービス「!-brain green」です。

発達障がいとはとても大きなテーマですが、昔は発達障がいという言葉すらなく、10年ほど前からようやくこの言葉が出始め社会的認知が進んでいます。しかし、大人になってから「発達障がいです」と言われても受容が難しく、それまでは障がいとカテゴライズされなかった事で苦しみ、どうすれば良いか分からないまま大きくなり、成人してから宣告されさらに悩んでいる方も多くいらっしゃいます。私たちはできるだけ早く発達障がいだと気付いて頂くにはどうすれば良いのか、家族はどう接すれば良いのかを分かって頂けるよう、また中・高生にどのようにアプローチし支援すれば良いかを考え、デイサービスの形態をとっています。実際の放課後サービスは障がいのある小学生を対象にする

事業が多いんですが、私たちは中・高生を対象にプレ就業訓練のサービスを行っています。

こちらの写真は、事業所で最近流行っている人生ゲームをやっているところです。人生ゲームは運が大きく左右し誰が勝つか分からないためとてもおもしろいようで、利用者さん vs スタッフだとほぼ利用者さんが勝ちスタッフは負けるそうです。オセロも流行っていますがやはりスタッフは勝てないらしく、発達障がいのある利用者さんがもつ何か強さのようなものを感じています。

次の写真は家事トレーニングでアイロンがけなどをしている様子です。障がいのある方、特に発達障がいや自閉症スペクトラムの方は不器用な方が多く、こういったことからトレーニングを重ねできる事を増やす訓練をしています。

そしてもう一つ、元々手掛けていた「!-store」を発展させ、全国の福祉事業所のプロダクトを中心とした販売、オンライン事業も行っています。私たちの製品のアーカイブにもなっていて、「福祉事業所でもこんな製品がつかれるんだ!」という事がお分かり頂けると思いますので、ぜひご覧になってください。

■熟考を重ねる今後の展望

障がいや福祉の可能性を社会に向けて如何に発信するか。様々なツールを使い事業所やお店をスタートさせ、若年性認知症のサポートという新分野の事業にも取り組み、町づくり、人づくり、地域づくりに如何に福祉を提案できるかに挑戦してきました。そして10年が経ち、障がい福祉分野の次、もう一つ大きな福祉分野にはどんな事業が必要なの

のか、私たちエクスクラメーション・スタイルは何ができるのか。

障がいというカテゴリーは障がい福祉分野として広がっていますが、カテゴリーやカテゴライズは人間がする事なのである意味広がって当然です。また、今までは精神障がいと言われる事に抵抗もあったんですが、随分と市民権を得てきました。言葉が柔らかくなってきた事もありますが、鬱や統合失調、発達障がいの社会的な認知も広がっています。しかし、精神障がいのカテゴリーに入る若年性認知症を私たち障がい福祉サービスの事業所はどのように受け止めればいいのか。現在の福祉事業所だけでは正直受け切れない部分もあり、今後の対応は非常に悩ましいところです。

事業所のスタートから10年と同時に障がい者自立支援法が施行されこの分野の自由化が始まって10年、障がい福祉分野は曲がり角にきています。NPO法人や株式会社、また社団法人によって多種多様な事業所ができ、私たちは自身をパイオニアだと自負していますが、私たちから見てもカッコイイ事業所やおもしろい事業所が増えています。最近では漁師や豚を飼育して販売するなどユニークな事業所も結構あり、全国的に有名になっています。一方で、昔からの福祉施設、いわゆる老舗も残っています。しかし10年が経ち、需要と供給のバランスは難しい所にきています。もちろん質の問題もありますが、私たちの事業所を支えているのは私たちがクルーと呼んでいる利用者さんで、クルーが事業所を利用してくださらないと売り上げは上がりません。そういう意味では供給過多で、就業訓練の分野は特に利用者さんを取り合う状況に陥っています。新規参入しやすい高齢者のデイサービスでは少し前からそ

ういった事態に陥っていますが、ではその状況をどのように打破すればいいのか。障がいというカテゴリーが広がっているため支援対象者は間違いなく増えていますが、利用に繋がらない、支援はしたいけれど事業所は使いたくないといった問題があり、そういった点を如何に社会にアピールしていくかが障がい福祉分野としての大きな課題であり解決していかなければなりません。

分野として考えると高齢、子育て、障がい、自立困難者…と様々な福祉分野があります。急拡大する需要に対する供給の問題や事業所の運営など課題が増えるのはニーズの多様化があるからですが、財源的な課題も結構あります。昔は施設建設には行政が出資してくれましたが、現在はそうはいかず、どうやって新しい事業所に建てようかという課題は常に残っていて、私たちも常に解決策を考え取り組んでいます。

■現在進行形の新たな取り組み

もう一つご紹介したいのが、フリーペーパーの『TRInanto（トリナント）』です。これまでは福祉事業所の情報は行政に頼らなければ取れなかったので、「フリーペーパーにしまおう!」と作成、銀行の窓口などにも置いて頂きました。「こんな福祉事業所があるよ」といった情報を気軽に見て頂く事ができ、新しい福祉事業所の在り方を提案する営業ツールとして活用しています。今日お配りしたのは昨年出した創刊号で今年中に第2号を出す予定ですが、障がい者の利用者確保の新しい媒体にしたいと考えています。

その他の取り組みでは施設整備や財源的な課題解決として、これまで国の補助や寄付金、福祉医療機構（独立行政法人）や銀行の

融資が主だった資金源の解釈を少し広げ、投資信託ではありませんがファンドはどうかと考えています。最近土地を遺贈したいという話も聞きますので、それらを資金元に社会的投資としてファンドをつくり福祉事業に充てリターンを出資者に戻すといった仕組みを提案した事がありました。提案したまま何もしていないんですが、そろそろどなたかがやってくれるのでは…と期待しています。土地の投資に関しては介護事業所や病院など専門の分野のものもできているので、福祉分野のファンドが近々できるのではと思っています。

■今後の展開を見据えて

先にお伝えしたように、私たちエクスクラメーション・スタイルの事業ミッションは「障がいのある人の“仕事力”を正しく社会に伝え、一つの社会資源として社会に求められる」、そして「求められる仕事を行う事で、障がいのある人が“普通の幸せ”を感じる事ができる居場所である事」です。しかし、事業スタートから10年を経た今、今後については本当に悩んでいます。

障がい福祉分野のパイオニアとしてまずはデザインで福祉を変えようと福祉事業所の環境や製品デザインに力を注ぎ、「福祉はダサイもの」といったイメージを一新、その一端をエクスクラメーション・スタイルが担ってきたと自負しています。その上での新たなチャレンジとして福祉事業と新たなものを組み合わせて事業化したいと。もちろん福祉事業といっている限りビジネスとして成立させ継続する事は必須です。先ほどご紹介した『TRInanto (トリナント)』は後半に広告ページを設け、広告費で出版費用をすべ

て賄うという新しいビジネスモデルをとっています。「こういった事業所がありますよ」と紹介する一方で「就職するにはこんな方法もあるよ」というパンフレットになっています。そして、これらをどのように事業化するのかと考える事が醍醐味でもあります。

私たちは福祉という観点から「福祉を中心とした町づくり」という言葉をよく用います。言葉としては「福祉事業で町をつくる」というイメージですがそうではなく、福祉は誰もが必然的に関わりをもつもの、生まれた時からこの世を去るまで人が必ず関わるもので、受ける側であり与える側であると。これまでの福祉の概念とは少し異なる意味合いで福祉を中心に据える事で、皆さんが関われるのではと考えています。

これを具現化した一つが堀川のコミュニティ・カフェ「KYOGOKU DINNING」で、スタートしたばかりでまだまだこれからですが、地域の人たちをはじめ多くの人たちを巻き込んでいきたいと考えています。何度もお伝えしているように私たちだけで完結できる事業はないと考えていますので、私たちが強い部分は私たちが、他で強みをお持ちの方にはそこをお任せし、同じ方向を向いて協働し事業化していく。その中心に福祉があれば関わりやすい町づくりができるのではと考えています。イメージやアイデアは豊富にありますので、今後の展開に期待して頂きたいと思います。

■その他の活動

最後にお配りしたチラシをご覧頂きたいと思います。

まず、現在まったくお金になっていないためビジネスモデルとは言えませんが、「そらま

めキャラバン」の宣伝です。こちらは京都市未来まちづくり100人委員会での企画を2年間続けているもので、「発達障がいってなに？」というところから市民の皆さんに知って頂けるようアピールしています。皆さんの所にキャラバンの出張し研修を行う、認知症サポーター講座の発達障がい版をつくろうと細々ですが続けています。こちらの活動はエクスクラメーション・スタイルというより私が個人として参加し、障がいのプロフェッショナルとして、福祉のプロフェッショナルとして社会に障がいや福祉を如何に浸透させるかを考え活動しています。皆さんも何かお手伝い頂ける事があればぜひご連絡をください。これまで京都市の児童館に合計4度出張させて頂き、来月も児童館で保護者を対象に研修をさせて頂きます。また、大阪のボランティア講座でもお話をさせて頂いています。本来は企業さんなどいろんな所に行

きたいと思っていますが、まだまだマンパワーが足りないのでゆっくりとやっています。

これまで障がい福祉分野と企業や市場、社会を繋げる事を考えやってきました。もちろんそれも大事ですし、今後も続けたいと考えていますが、その分野はある程度成熟してきたかなとも感じています。福祉事業所も増え、障がいのある方の訓練を行う事業所の選択肢も増え、その役目は一通り果たしたかとも思っていますので、そちらは他に任せ次に進みたいとも考えています。

今日は事業所やお店のチラシをたくさんお配りしていますのでご覧になって頂き、ぜひお食事をしにいらしてください。ご静聴、ありがとうございました。

司会 ありがとうございました。

（2015年10月17日）

